

## Q1 記憶に残っている言葉は？

A1

ノブレス・オブリージュ  
(Noblesse oblige)

出身高校の英語教材の名前に付けられていた言葉です。「立場のある者は相応の義務を背負っている」という意味ですが、義務というよりも社会に貢献する機会を多く得られる自発的な文脈で捉えています。

学生時代から人間の認知行動特性の理解に基づくシステム構築の研究を続けています。研究成果を社会に還元したいと思ったのは大学院生の頃です。現実世界と情報世界を融合する研究に取り組み、2004年に国立科学博物館で、鑑賞者の移動に応じて展示解説する「ユビキタス・ゲーミング」というシステムの構築と実証の機会を得ました。開発した技術が社会で使われ、喜んでもらえることにやりがいを強く感じました。博士号取得後、少子高齢化を支援するロボット技術の研究に参画したことで、超高齢社会を題材とした研究に出合いました。

## Q2 研究テーマを一言でいうと？

A2 人と社会とのつながりを強化する技術

高齢者支援の研究開発では、介護などが必要な高齢者を支援する技術が多いのですが、私は特に元気な高齢者と社会との接点を情報通信技術によって生み出したいと考え、就労支援に力を入れています。ただ若い頃と同じように働くわけではありません。高齢者がそれぞれ空いている時間や持っている能力を補い合いながら、働きたい時にだけ働くスタイル作りを目指しています。そのためにWebアプリ「ジーバー



# さきがける 科学人

vol.89

何歳からでも  
活躍できる  
社会の実現を  
目指して

東京大学 先端科学技術研究センター  
講師

檜山 敦

Atsushi Hiyama

### Profile

熊本県出身。2006年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。東京大学大学院情報理工学系研究科特任助教、特任講師を経て、16年より現職。17年より国際科学技術協力基盤整備事業主たる共同研究者。18年より未来社会創造事業研究開発代表者。

(GBER)を研究開発しています。ジーバーは「地域の元気な高齢者を集める」という意味の英語の頭文字を取っています。困った時や人手が欲しい時にアプリで求人募集をすると時間帯や能力などの条件にマッチしたおじいちゃん、おばあちゃんが来てくれます。すでにサービスの実証を開始していて、2019年4月現在、2700人以上がアプリを通して地域参加しています。

他にも元気な高齢者が旅行の様子を360度カメラで撮影してSNSなどで共有することで、外出が困難な高齢者がバーチャル旅行を体験したり、遠隔操作ロボットを使って空間を超えて活躍したりできる技術を開発しています。台湾の大学との共同研究では、単調になりがちなリハビリに複合現実感を取り入れ、楽しみながら取り組んでもらえる仕組みをつくっています。

1人1人と社会との接点を見いだす技術の研究開発をすることで、何歳からでも無理なく活躍できる社会を実現したいです。将来、若い世代とお互いに助け合える社会も構築できると考えています。

## Q3 休日の過ごし方は？

A3 いろいろな趣味を楽しむ

ファッションに興味があり、ファッションウィークに参加したこともあります。ツイード素材の服を着て自転車で街を走る「ツイードラン」に、行きつけのテーラーで仕立てたツイードのモーニングなどで参加し、これまでに3つのベストドレッサー賞を受賞しました。他にも北アルプスなどの高山に挑戦してきました。子供の頃から好きな特撮映画や最新のCGを駆使したハリウッド映画も楽しみつつ研究の発想も得ています。年齢を重ね体力が落ちててもいろいろな趣味が楽しめる、そんな未来をつくりたいです。



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

R70

古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

JSTnews

September 2019

発行日/令和元年9月10日

編集発行/国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)総務部広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3サイエンスプラザ

電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432

E-mail/jstnews@jst.go.jp JSTnews/https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー